

第1回安曇野赤十字病院建設支援検討委員会 会議概要

- 1 委員会名 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会
- 2 日 時 平成18年6月26日(月) 午後1時30分～4時00分
- 3 会 場 堀金総合支所301・302号会議室
- 4 出席者 荻原委員、澤海委員、西山委員、青木委員、丸山委員、米倉委員、清澤委員、
等々力委員、腰原委員、曾根原委員、宮澤委員、山崎委員、遠藤委員、
小林委員、藤森委員
- 5 市側出席者 市長、土肥企画財政部長、堀田健康福祉部長、飯沼企画政策課長、丸山健康
推進課長、猿田企画担当係長、宮下健康推進係長、黒岩主査、上條担当
日赤出席者 青山事務部長、笠原企画課長、三浦事業第一係長、斎藤主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 記者 4人
- 8 会議概要作成年月日 平成18年7月10日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開 会 (土肥企画財政部長)
- (2) 委員の委嘱 (委員15名委嘱)
- (3) 市長挨拶 (市長)
- (4) 自己紹介 (検討委員会委員、日赤、市事務局)
- (5) 役員選出 (会長1名、副会長1名選出)
会 長：西山馥司委員
副会長：丸山祐之委員
- (6) 協議事項 (進行…会長)
 - ① 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会基本方針の確認について
 - ② 安曇野赤十字病院現地建設基本計画について
 - ③ その他
- (7) 閉 会 (会長)

2 審議概要

- (1) 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会基本方針の確認について(事務局より説明)
 - ① 安曇野赤十字病院建設に係る取組み経過について(資料1)
会 長：起債で、5/8が対象事業で95%が起債事業について説明されたい。
事務局：公営企業債の中の病院事業において、公立病院の交付税措置の範囲が5/8である
ということからである。まずは起債の対象となる事業費を確定する必要がある。
委 員：その措置は安曇野日赤と公立病院の場合とでは違うのか。
事務局：公的病院として位置づけていくとの解釈である。従って率は同じである。
会 長：国・県からの補助金というものはあるのか。
事務局：18年度からはこれまで医療関係にあった補助金が交付金化されると聞いているが、
未だ国からは示されていない。
会 長：今までのルールから言えばどの位の割合か。
事務局：基準額の1/3つつが今までのルール。
 - ② 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会設置要綱について
 - ③ 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会基本方針について
委 員：松本広域圏、診療圏における医療施設の実態等の研修はいつやるのか。
事務局：出来れば次の検討委員会の時に行いたい。

会 長：基本方針の人的支援とはどういうことか。

事務局：日赤からの様々な相談に対して、行政として対応していきたいということ。

④ 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会関連事業スケジュール表について

委 員：8月にプロポーザル公募開始とあるが、どのような範囲からを考えているのか。

日 赤：現在聞いている限りでは、オープンシステムになろうかと思っている。

会 長：8月にプロポをやるということは、ある程度の線を持っていないといけないのではないか。

日 赤：今の予定では8月にプロポーザルの公募を開始し、11月に設計業者の選定をするということになっている。3ヶ月程をかけてプロポーザルを実施して設計監理業者を決めていく。という大まかなスケジュールを考えている。

会 長：プロポーザルはある程度の真意性がなくても良いのか。

日 赤：今考えているのは、1次・2次審査になる。最初の1次審査は書類選考。そこから絞り込んで、病院側の構想や地域の皆さんの要望・意見を業者に示していきたい。2次審査の中である程度の条件を示しながら提案を頂く。

委 員：どのような構想かをある程度まとめて示してやらないと、業者は分からないのではないか。

日 赤：お手元の基本計画書をプロポーザルでは示していきたい。これによって手を挙げて頂くようなシステムを考えている。

委 員：市民要望の意見・受入れとアンケートの実施、市民の声を病院へ伝えていく、とはどのように行われるのか。

事務局：市のホームページ、広報を通じて市民の皆さんから声を頂く。ある程度まとまった時点で報告していきたい。アンケートについては直ぐにでも行い、9月に予定している第2回検討委員会には、ある程度まとまれば委員の皆さんに示していきたい。

⑤ アンケート調査について

委 員：安曇野赤十字病院を利用されていない方の理由、考え方がこれでは吸い上げられない。その方法を仕組みとして作って頂きたい。

事務局：その仕組みとして、ホームページ、広報を通じて意見を募りたい。

会 長：日赤としては何か考えていないのか。

日 赤：病院としてのアンケート調査は考えていない。投書箱を設置して利用して頂く方の意見等には答えている。今まで2回程、来院者に対して満足度調査をしている。

委 員：来院者だけでは地域住民の求めるものが掴めない。マイナスの部分を把握することによって、今度の建設に活かせるのではないか。

委 員：制度の誘導があつて、病院は外来を縮小する方向にあり、入院診療というのが重点になっている。受診の回数は評価が難しい。内容を少し検討するところがある。

事務局：負の部分のアンケートについては、広くホームページ、広報を使うことで補いたいと考えていた。内容についてはもう少し日赤と詰めたい。

委 員：アンケートは全戸配付が理想。このアンケートはどうやって渡すのか。小児科のような小さな子供の場合はどうするのか。また、英語は出来るだけ使わない方が良い。さらに、普段、字など書かない人のためにその辺の工夫をされたい。

事務局：アンケートは受付で渡すことを考えている。子供については保護者を書いてもらうことを想定していた。

委 員：基本的には公平な意見を取るということ。それには年齢別の無作為抽出によることが一番良いと考える。

委 員：病院建築は10年来の夢。狭隘・老朽・診療機能が整備しようにも出来ないという現実の中で、利用しない理由を書いて頂くことが良い病院を造るのに大事になると思う。是非その辺もアンケートに現れるようにしてもらいたい。病院に持ち帰って業者選定、基本設計等に反映させていきたい。

事務局：事務局としては、市民一般にアンケートを取るという感覚ではなかった。アンケートをとった方が良いという話があるので、年代別で抽出をしてやりたい。サンプル

数についてはこちらで検討させて頂きたい。アンケートの内容については、頂いた意見をベースに変えるようにしていきたい。

委員：送る前に委員に見せてもらいたい。

事務局：アンケートの内容を煮詰めた時点で、一度検討委員に見て頂く。

(2) 安曇野赤十字病院現地建設基本計画について（安曇野赤十字病院より説明）

委員：6人部屋が多いとのことだが新しい病院ではその辺の人数はどう考えているのか。

日赤：4人室を基準に考えている。個室も必要だがその割合は20%以内と見ている。1つの病棟で個室は8～9となる。

委員：赤十字として絶対に外せない赤十字病院の使命は何か。

日赤：赤十字病院は地域のための医療を展開することにある。基本構想の地域の健康づくりへの貢献、災害救護体制の強化が中心になるが、救急医療体制の強化についても赤十字の大事な使命になる。もう一つは疾病予防も大事なことである。

委員：移転補償料とあるのは何か。

日赤：土地購入の隣接地とあるのは、正面玄関の住宅と、駐車場として借りている隣の住宅、それと、豊岳荘北側の畑の部分である。

委員：病院の意見箱にはどのような投書が入っているのか。

日赤：基本的にはお叱りの言葉。病院の造りについても意見がある。

委員：医療機関のアンケートでは1番は待ち時間。2番目が接遇。3番目が医療の質となっている。

委員：日赤にどういう機能が欲しいのか。住民が何を望んでいるのか。市が支える意味でアンケートを考えてもらいたい。

委員：病院機能に何を求めるのか、というアンケートはとても大事になる。是非、それを質問事項に入れて頂きたい。

委員：病院側できちんとした計画を立てることが大切。個々の要望を聞くことは難しい。

委員：診療されている地元の先生がどういうふうに日赤に期待しているのか、医療機関の先生の意見を重視して検討の基礎に考えてもらえば良い。

委員：急激に制度が変わっている中での病院新築であり、補助をお願いする立場では一般の方の十分な理解を得たい。

委員：アンケートも住民が関心を持って、これから日赤病院を建てることに、住民参加を得ることでは大変良い方法ではあるが……。

事務局：アンケートについては色々ご意見を頂いたが、こちらで案を作って委員の皆さんに送らせて頂く。それで確認をお願いしたい。

委員：この基本計画について、医師会と赤十字病院と意見交換はされているのか。

委員：病診連携の中で概要は説明した。

委員：地域の中核病院ということで、市民のためにも専門家同士の話をしてもらいたい。

(3) その他

① 第2回建設支援検討委員会の日程について（事務局より説明）

事務局：次回は、9月下旬の最終の週に日赤で行いたい。詳細は通知をする。